

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)

セッション討議内容の記録

セッション名：土木計画のための景観研究を考える（１）「景観研究の拡がり」	
日付： 6月 7日（土）曜日，セッション時間： 8:45 ~ 10:15	
オーガナイザー・司会者名(所属)：田中尚人（熊本大学）	
討 議 内 容	セッション全体： (各発表に対する質疑応答終了後)
	天野：日大 景観に関して，分かり易い，分かり難い，という議論があったが，土木計画学的には，費用便益的分析でやるために，切り捨ててきた部分であると思う．分かり難いことは，分かり難いままでいいじゃないか．
	藤井：東工大 景観を土木計画で語るために，一番重要な課題であると思う．いままで，土木・計画学であった．これでは，計画学で救えないものは，切り捨てて行かねばならない．これからは，土木計画・学であるべき．
	平野：東北大 天野先生の話に絡めて，森地先生（元東北大）がおっしゃっていた「費用便益比は1.2だけどやりません」，「費用便益比は0.8だけどやります」という，意志決定は，行政，政治の仕事で，土木計画の仕事は，その指標でしかないことを思い出させます．
	松島：京大 B / C はツールでしかない．判断基準として，景観を組み入れるのか入れないのか，を議論すべきだと考える．必ずしもB / Cにのせなくてもいいのでは？
	天野：日大 分かり易い，分かり難い」という議論は，「誰にとって」ということが大切．普通の人が使える「論理武装」が必要である．
	笠原：東工大 つくる側と使う側では，字面は一緒でも，意味が違う」ということが多い．例えば，「美観」という言葉を，行政では，電線，ベンチ，ゴミ箱の清掃の論理として使うし，近代の名所本では，はな，紅葉で埋め尽くされたなどのように使う．
藤井：東工大 できること，できないこと，をちゃんと見極めて，できることから一步一步すすめていきたい．	

谷口：筑波大

大西先生の、「法律は規範をゆるめるのでは？」という危惧に対して、法があるからできる規範もあると考えるが、いかがですか？

法が内的規範を高める、と考えています。(大西)

(発表番号) 発表者名 (所属) : (280) 福井恒明 (国土技術総合研究所)

- ・ 景観研究に特有な問題設定なのか、他の分野にも共通するものなのか？ (佐々木葉)  
他の分野にも共通するものであると思われる。
- ・ 特に計画学的に、どのような課題が挙げられるのか？ (田中：司会)  
上田先生 (東大) をお願いしている、便益としての景観の価値などが、考えられる。

(発表番号) 発表者名 (所属) : (281) 大西正光 (京都大学)

・ お金が景観を壊す、「いいものを作る、というよりは、悪いものを排除する」という意味あいの研究と考えるとよろしいか？ (天野)

「景観を守る」と規制がちがちにするよりも、「景観を育む」という姿勢が必要であると考えている。法はセーフティネットである。

(発表番号) 発表者名 (所属) : (282) 香川太郎 (東工大) 代：藤井 聡 (東工大) 発表

・ やった方がいいことは、やろう、役人の方々も (天野)

M/Mでも狙っているのは、そのような趣旨である。やれることから、やろう。

・ 「一人一人の気持ちを変えていこう」という従来、建築分野の方々が行ってきた参加のまちづくり系と、藤井先生たちの取り組みはどう違うのか？ (佐々木葉)

建築のまちづくりはボトムアップ型であり、いわゆる「交通まちづくり」というのはトップダウンだと考えている。我々が考えているのは、自主的なボトムアップである。

・ 建築分野でもWSなどにおいて「説得的コミュニケーション」をやっている (平野)

・ ネットワークづくりという観点から、商店主同士の繋がりに着目したのが面白い (柴田)

(発表番号) 発表者名 (所属) : (283) 笠原知子 (東工大)

・ わかりやすい、わかりにくいのは誰にとっても言葉か (松島)

ものをつくる側の言葉であるが、実は、地域の人にとっても同じ言葉が使える。

・ 地域の人を感じている価値が、公共政策に対して認められるのか (真田)

なかなか難しいが、そうしていかなければならないと考えている。

・ 分かり難いことは、分かり難いままでいいじゃないか (天野)